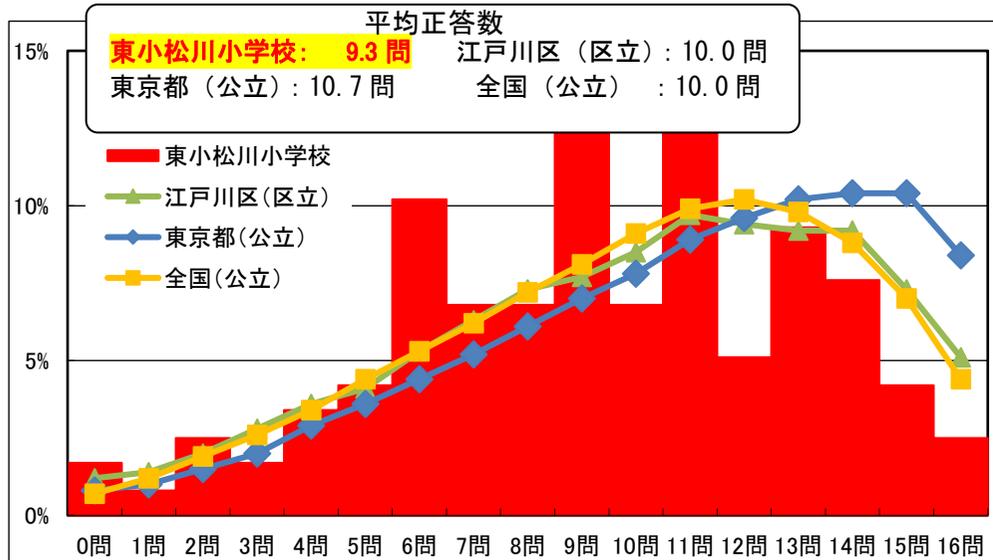
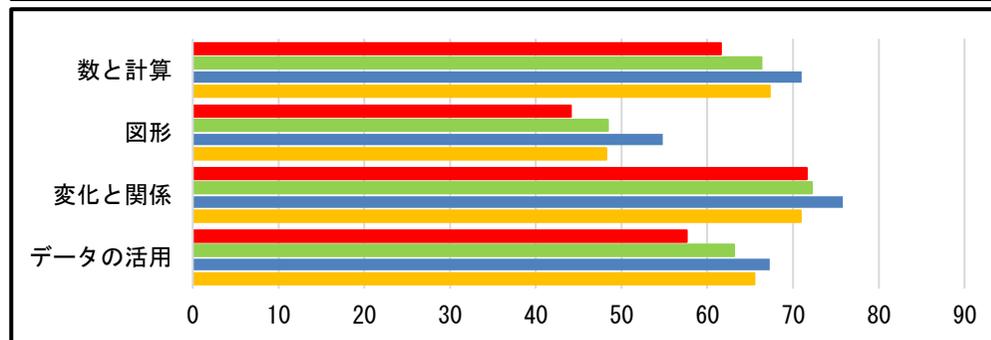
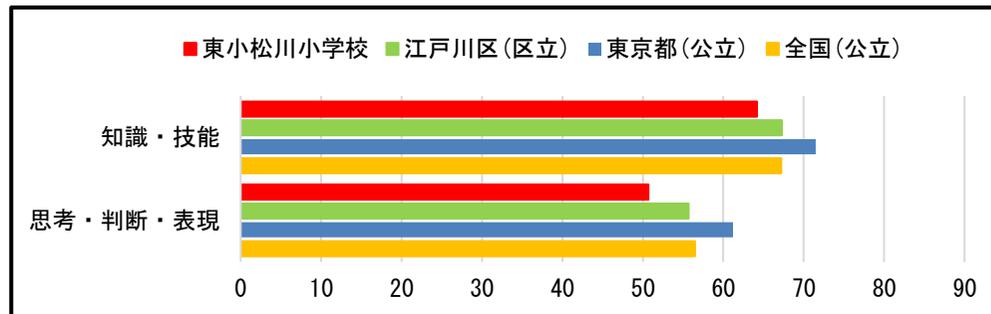


令和5年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【算数】 東小松川小学校

正答数分布



「領域別」の結果



<四分位における割合(都全体の四分位による)>

算数	上位 ← → 下位			
	A層 14~16問	B層 11~13問	C層 8~10問	D層 0~7問
東小松川小学校	14.3	28.0	26.3	31.3
江戸川区(区立)	21.6	28.3	23.5	26.6
東京都(公立)	29.2	28.7	20.9	21.2
全国(公立)	20.2	29.9	24.4	25.5

【平均正答率の差】

東小松川小学校	58%
江戸川区(区立)	62%
東京都(公立)	67%
全国(公立)	62.5%
都との差	-9ポイント

【分析結果と授業改善に向けて】

学習指導要領の領域別の平均正答率を比較すると、「C 変化と関係」は全国より平均正答率が若干上回っているものの、他はすべての領域において、全国や東京都より平均正答率が低いことが分かった。特に「B 図形」と「D データの活用」の平均正答率が低く、課題であることが明らかになった。

改善策としては、「図形」領域においては図形を構成する要素や図形の関係などに着目し、図形の性質や図形の計量について考察し、理由等を言葉や数値を用いて記述する力を育てていく。

また、「データの活用」領域においては、データの特徴や傾向に着目して複数のグラフを組み合わせたグラフを的確に表現し、それらを用いて問題解決したり、解決の過程や結果を多面的に捉え考察したりする力を養っていく。

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。